

週間感染症情報

2017年31週～33週 2017年7月31日より2017年8月20日まで

	31週	32週	33週
麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)	2		
ムンプス(おたふくかぜ)		2	1
百日咳			
溶連菌感染症	8	1	3
手足口病	103	76	34
ヘルパンギーナ	13	4	4
伝染性紅斑			
感染性胃腸炎	21	23	24
ロタウイルス(再掲)			
便アデノウイルス(再掲)			
突発性発疹	4	1	5
伝染性膿痂疹(とびひ)	24	23	23
ヘルペス性口内炎			
アデノウイルス感染症		2	3
RSウイルス感染症			4
マイコプラズマ感染症	1		1
インフルエンザ(臨床診断含む)			
インフルエンザA			
インフルエンザB			
A+B			

遅くなりましたが、31週から33週の3週間分の報告です。

感染症は少ないです。喘息やイネ花粉などアレルギー疾患が増えています。

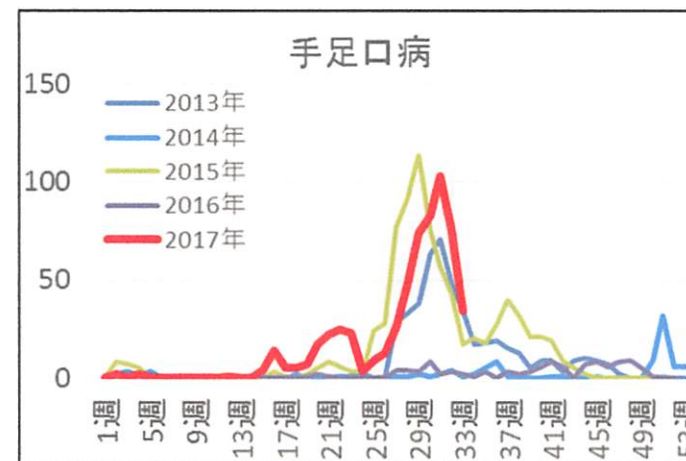
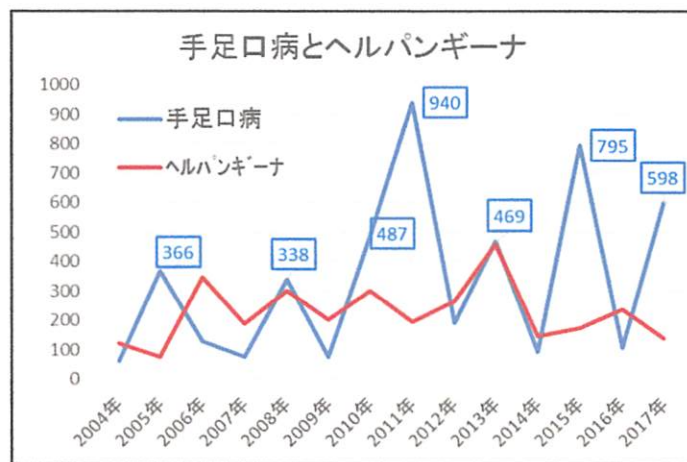
ムンプスは、周囲に流行がなく疑い例が多く抗体検査をしています。

手足口病は31週の103例をピークに減少しています。高熱で発疹の多いタイプと発熱のない発疹が主のタイプと数種類あり、2回り患するケースも出ています。保護者や、中学生・高校生の症例もありました。

感染性胃腸炎は、サルモネラ、病原性大腸菌025、カンピロバクターなど細菌性胃腸炎の報告がありました。

伝染性膿痂疹は、難治性の症例が増えています。

全国的に今年はRSウイルス感染症が流行期に入ったと報道されていましたが、33週で4例の報告があり入院例も出ています。総社市内だけでなく高梁市や岡山市の保育園でも患者が出ており、34週になり複数の市内保育園で陽性例が出ています。年長児では感冒ですみませんが、年少児で喘鳴・呼吸困難がある場合は注意して診察していく必要があります。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyaiinsoja.webmedipr.jp/>)